

属らまゝ一由へ遠遣ハ初度不ど乾うせ玉とし。熱くせを也と好
 づつた。新ハ計らひこそまづぬと声も詞も清くは小重を也
 秀吉所玉ひ相総とりひ行義とりひ目ハ心中の善略とりひ
 尋常あじと賞賜したまひ。累く任僧おうち白ひ遠少
 来せ得させんわやと懸望たたりありはれ。まづ少年は父
 を呼よせ如くの詞を言听らる小其父秀吉の弟小出らう。秀
 吉渠が素姓を問バ累代石田村小住居せし。百姓佐五右衛門
 とりひつるゆはして先祖ハ武士らう言傳おまごも素妻小世を
 室しふ過せう。切てハ續兎一個とごも武家小奉公させまく思ふ。
 心通とらう。傳中や。地領の折目小と取置ハ本望のようしを
 稟容らう。秀吉大ハ満悦せられ。少年の名ハと問せと多ハバ。

今年十有二歳小して。名ハ佐吉とぞ登へける。然らバ海が立下
 名とりて石田佐吉と号さべしとて直地小主従の契約せられ。
 舟便具して申らうと海。長濱の城小帰らまらう。

勝家守長光寺與兼頼戦属歎断水路

一石固ふして。萬恙これ小觸らる。うらむらむを碎けむとりは傳
 々。茲小江列武佐驛長光寺の城ハ柴田權六舟勝家ハ
 百餘騎小て穿城しとる。と六角兼頼敗士を集め。ハ民候を
 召撥らふて。五千余人と引率し。長光寺は城を攻めやと元龜
 元年五月廿有一日。稍篠の芽とえん分る割頭喊をつらうて推し
 せ。并も長光寺の城とりはる。東場小築きし要涯はまづ憑
 とまづた結構ありと。そまを懸て六角兼頼唯一接小せ免落し。